

## Café

カフェの話 6  
甚六

1970年、あさま山荘事件のあったその年、私は高校に入学しました。15歳の私が足を踏み入れたその学校の印象は鮮烈なものでした。入学式は、前校長の退任式を兼ねて行われ、講堂の壇上に立った校長先生に浴びせられたのは、飛び交う野次と、何本もの真っ白いトイレペーパー。それは、ひらひらと頭の上を舞っていました。前校長は顔色も変えず悠然と生徒達を見渡し、演説を終え、壇上を後にしました。さすがに講堂の一部からは喝采が送られました。校舎のあちこちにはペンキで乱暴に「反戦」などの落書きがあり、ガラスは割られたまま。先輩達は男も女も長い髪を垂らし、腕組みをして笑い合っています。高校生活にも慣れた頃、先輩から、「甚六」っていう喫茶店に皆集まっているから来いよ、と言われ、同級生達と出掛けてみることにしました。学校から歩いて3分程の所に何となく和風につつまれた喫茶店がありました。中へ入ると、長方形のボックス席5～6組程の小さい店が満席になっており、その半分がダンプの運転手達、半分が先輩高校生達で占められており、全員が煙草を吹かしているから、もうもうと真っ白に煙っています。先輩は私達を見るとお尻をずらして座らせてくれました。水を運んできたのは割烹着のおばさん。出された珈琲のお皿には「甚六」と銘打った箱に入ったハイライト2本。高校生にも煙草を出してくれるのです。珈琲と煙草、ダンプの運転手とおばさん、常連みたいな先輩達。おばさんは、やばい時は必ず知らせてくれると、先輩は目配せをして笑います。

私はその奇妙な店の隅に座り込んで、茶色く濁った珈琲を飲み干しました。



## COLUMN

## 鎌倉の猫事情 第八十四話

先日、街へ買い物に出掛けた際、駅の階段を駆け下りようとする途中に、なにやら気配を感じてふと足元を見ると、階段の片隅に大きなネズミが、そのネズミとしては大きすぎるほどの体を精一杯縮こめて、まるで誰にも見つかからないようにしているかのように丸くなっているのを見つけました。立ち止まってしみじみ眺めて見ると、ネズミはしっかりと目をつぶり、これからの自分の運命から必死に目をそらそうとしているように見えました。その位置は、人ごみの中、階段を下りようにも上ろうにもどちらもネズミにとっては気が遠くなるような距離でしょうし、まして見た目は丸々と太っているのですが、どうやらとても弱りきっているのです。私も思わずこのネズミに数十分後に訪れるだろう運命から目をそらさずにはいられませんでした。気がついた女子高生達も、「どうしたんだろうね」などと言いながら気の毒そうに眺めています。命あるもの、誰も彼も生きていくのに精一杯なのだ、見かけたのが、家の中なら考えにくい感傷にひたりながら、グーニーとスピーの待つ家路についたのです。数日経ってまた、何とはなしにそのネズミの事を思い出したりしていました。かつての宿敵、灰色猫も茶トラも、最後はあのネズミと同じ運命でした。長年の棲家で息を引き取った先代の三毛猫シュガーちゃんは、孤独なネズミや茶トラとは一線を隔した運命ではありませんが、最後には、「自分で自分を看取る」というような、厳粛さがありました。自分の力の限りを知り、この世を去るすべを、動物達は知っているのでしょうか。縁あってこの家にもまれて来て、思えばもう10年グーニーとスピーと共に暮らしてきました。その中で自然と夫婦になり37匹の子猫が生まれ、全員が旅立って行きました。誰もが今も幸せで暮らしていることを望むばかりです。ね…と、グーニーの方を見ると、グーニー君何やら考え事をしている様子。ふむ、グーニーに、何か考えることでもあるのでしょうか。そして、時折目を開けて天井を見回します。私も付き合って天井を見上げますが、何もありません。平和です。

本当に、今のところは…

グーニー君と、

スピーちゃんの夫婦、人間ならそろそろ、還暦です。二人で老後の計画なんて、話し合ったりする頃です。

でも、猫たちは、そんな事関係ないのです。

生きて、死ぬ。それが、すべてだと

猫たちが、教えてくれています。



to be continued





plný  
život

# HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 34

ミルクホールのルーツ 20

鎌倉駅前にあったその家が全焼し、今ミルクホールのある、この家に移るまでには、いろいろな事があったようです。取りあえず、という事でバラックのような所に住んでいたこともあったようです。駅前家が焼けるまで・・・磯見の父母が、終戦後中国の青島を引き上げて帰国し、鎌倉に戻ってこの家に新居に構えたのですが、その家では幾つかの商売を営んでいたそうです。「ちんとう屋」青島にちなんで名づけたのでしょうか。というその店は、惣菜屋であったり、文房具屋であったり。惣菜屋さんだった頃は、当時映画スターだった田中絹代さんがよく買い物に来たそうです。文房具屋さんだった頃は、マスターもよく仕入れを手伝い横山町まで一緒に出掛けたそうです。短い間だったでしょうが、戦争を通り抜けた父母たちが、幾年ぶりに安らいだひと時だったのでしょうか。義母が元気だった頃、通りで会うと、「あら、ちんとう屋さん？」なんて明るい声をかけて来る人もいました。最近この「ミルクホールのルーツ」を読んだ下さった方達から、「私も青島にいたのですよ」とか、「兄が海軍で青島にいました」という話を聞きました。戦争中、鎌倉の人達は青島へ渡った人が多かったそうです。何か理由があって、鎌倉と青島の結びつきは深かったようです。

義母が亡くなる前まで懐かしがっていた青島は、どういう町で、どんな人達がどんな暮らしをしていたのか、少しずつ近づいてきたような気がします。青島の記憶は、いつしか行ったことも見たこともない私にとっても、懐かしい記憶になっていました。



次号へ続く

2009 Milk Hall

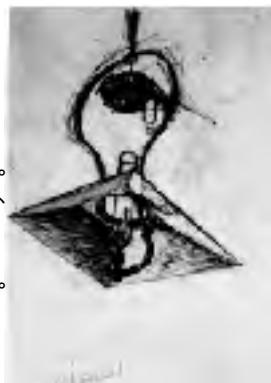
# ANTIQUES BAZAAR

2009年、ミルクホールでは毎月一度、テーマを決めてガラクタ・アンティーク・骨董の催事を開催いたします。

## 照明の通信

灯かりをテーマに・・・

日本の灯かりの道具は、実にユニークです。住まいの中の日本の光の捉え方を見てみると、西洋のそれとは、全く逆の考え方をしているのが分かります。西洋では、教会などに象徴されるように、より高い所から光を求めます。神の光を象徴しているのでしょうか。ステンドグラスや、天窗から入る光は、実に神々しく美しいものです。一方日本は、地明かりをよく用いています。床を這うような光です。日本の和室を採った写真を見せると、西洋人はよく逆さまに見てしまうと聞きます。和室では、床が一番明るいからです。西洋の家では考えられない事です。影・陰・翳・・・と日本には、暗い部分を指す言葉が、こんなにあります。日本人は古来より、光よりも「かげ」に神秘的なものを見ていたのです。それは西洋の神というより、自然への畏敬や憧憬、信心が入り混じったものです。日本人は「かげ」を愛し、様々な演出や、遊びを試みました。長い間照明器具として使われてきた「行灯」、光と陰を演出した障子や、格子、欄間、簾、日本の家には、あらゆる美しい陰ができました。4月は、光と陰の蚤の市です。



5月 9日(土)  
10日(日)

蚤の市  
骨董をテーマに・・・

6月 13日(土)  
14日(日)

きもの市  
単衣・ゆかた・・・

★毎週火曜日は  
着物の日です

# LIVE

ミルクホールの BAR TIME  
ライブでお楽しみ下さい。

4/18 Sat.

by HALF MOON

19:30~

琢磨 仁  
琢磨 啓子



HALF MOONは、愛と平和を歌います。

# Information

ミルクホールタイムス 総集編 ¥1800

「鎌倉ミルクホールタイムス」 ¥1000 ¥1000

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号まで  
人気連載中の「鎌倉の猫事情」を第一話より掲載いたします。

ミルクホールタイムス定期購読募集

年間購読料 ¥150

248-0006

鎌倉市小町 2-3-8

PHONE 0467 22 1179

FAX 05034882872

meil

inf milkhall.co.jp



ミルクホール

骨董・ガラクタ市

## 蚤の市

4月の蚤の市のテーマは、灯かりです

4/11 Sat. 12 Sun.

ミルクホールのアンティークは 朝11時 OPEN!  
 明治・大正時代の日本のものを中心に  
 古き良き時代の暮らしの中で親しまれた品々を揃えています。  
 今月は、灯かりにまつわるアンティークをいろいろ集めました。

### ..... 蚤の市 入荷予定 .....

灯かりの道具いろいろ

大正・昭和初期 ランプシェード  
 バウハウスデザイン 照明スタンド  
 イギリス製 ステンドグラス各種  
 江戸末 行灯皿 瀬戸の吹墨  
 明治行灯各種  
 格子・すだれ・障子など  
 日本の灯りの道具いろいろ



### ... ANTIQUES

伊万里・古陶磁  
 和洋家具  
 古民芸  
 アンティーク

#### ♠ 和洋家具

大正時代ガラス水屋 2段  
 カウンターテーブル ミシン脚 2種  
 明治・大正時代小筆筒各種  
 明治時代衝立・昭和初期衝立  
 大正時代ガラスケース各種  
 明治～昭和文机各種  
 裁縫台各種



#### ♣ 古陶磁

古伊万里染付鉢  
 幕末伊万里そば猪口  
 明治錦絵七寸皿  
 明治銅版小皿  
 伊万里輪茶碗・そば猪口  
 古伊万里豆皿・なます  
 明治瀬戸石皿・鉢  
 伊万里蓋お碗各種

#### ◆ アンティーク

藤田嗣治パステル画額入り  
 竹久夢二額入り  
 明治乳白ガラスシェード  
 照明スタンド各種  
 額絵・ポスター各種

#### ♥ 古民芸

大正時代鏡台  
 漆お椀・茶托・御膳  
 明治道具箱・樽など  
 李朝青磁・白磁  
 常滑壺 越前壺



### 古布・古裂

#### ✂ 半衿・帯揚げ

無地の半衿 ¥500より  
 銘仙・絞りなど ¥800より

#### ✂ 着物

大島紬・琉球紬・銘仙  
 久留米紬・お召し・縮緬

#### ✂ 古布 ✂ 帯締め ¥800より

反物 大島紬・絞り・銘仙など

1mにつき1000円ほどの価格です。  
 ご自分で色々なものをお作りになる  
 方達のご要望に合わせて、多種多様  
 な日本の布地を取り揃えています。

#### ✂ 帯

名古屋帯  
 袋帯  
 昼夜帯  
 半幅帯

